

みんなで作る

森ものがたい

2019年3月9日発行 第129号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355

福岡市南区大字桧原855-1

TEL:092-871-2112

FAX:092-801-8661

<http://www.morikai.org/>

mail: aburayama@morikai.org



<2/10 森の保全作業体験とシイタケ駒打ち >

も	表紙	1
く	活動ノート(12/8,12/16,1/13,1/20,2/10,2/24)	2~4
じ	特集「アカマツ林の成木調査」	5~6
	油山のお仕事日記「ロゼット」	7
	リレーコラム「自然に触れること」	7
	うん・えー会報告(12/8)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は（公財）福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



12月8日(土)
アカマツ成木調査、木工教室
12:40~16:30



◆参加者：中嶋、国広、柴戸
鎌田、林、静間、山川、吉田、川
上、堤、平野家5名、富山家2名
計17名

◆内容：

【アカマツ成木調査】A~F 地区のアカマツ成木(胸高直径3cm以上)の胸高直径の測定と、樹勢の判定を行い、記録する作業を行いました。3名での作業でしたが半日でほぼ全ての成木の測定を行うことができました。中にはメジャーの上限の63センチを超えるものも数本ありました。計測値を見ると全体的に昨年度より0.5~1.0センチ程度伸びているようでした。寒い中、斜面で行う作業は大変でしたが、除伐作業が進んだ明るいアカマツ林の眺めは素晴らしかったです。

【木工教室】保全作業で出た木材を有効活用してクリスマスツリーを作りました。12時半より工作の内容を説明し、道具準備。そして、ノコギリと剪定鋏をもってアカマツ林へ行き、材料にする木の枝を調達。今回のツリーは、紐で小枝を結んで作る壁掛けタイプと、軸に小枝を通して積み重ねていくツリータイプを用意しました。

家族会員の参加もあってレクチャールームは大賑わいでした。子供達も手伝ってもらいながら、自分たちが考えたデザインで素晴らしい作品を作りました。中でも、ツリータイプの大きな作品はなかなか迫力のあるものができました。このツリータイプはバラバラにして収納ができます。反省点は、製作時間が2時間半では足りず、飾りつけがあまりできなかったことです。あと1時間は必要と考えます。道具は、森会のドリルがバッテリーの関係で使えずセンターから借りました。メンテナンスが大事ですね。ホットボンドも森会の2個では足りず、センターから3個借りました。

【ふりかえりより】

・木の持つぬくもり、美しさを
すばらしいクリスマスツリー
にすることができました。小さな
子供達もがんばっていましたね。
(堤)

12月16日(日)
納会と炭焼き
9:30~15:30



◆参加者：富永、中嶋、新地、
堤、織田、柴戸、静間、鎌田、
吉田、林、松雪、山川、川上、
平野家4名、新牛込家4名、
杉尾家3名 計24名

◆内容：活動内容は、納会とオイル缶による炭焼きです。センターで手順の説明の後、道具を

そろえて、キャンプ場のロッジ下の炊飯場へ移動しました。キャンプ場に着くとすぐに、子どもたちと一緒に火おこしを始めました。新聞紙をまるめて並べ、その上に枯葉、小枝を積み着火しました。それを4つのかまどで繰り返し、火おこしをしました。

料理班は、初めに、鍋・調理器具の洗浄をしました。その後、玉ねぎをカットして貰う間に、鍋に水を入れて火にかけました。別の鍋に挽肉と豚肉を入れて炒め、野菜も炒めて先ほどの鍋の湯を入れ、カレー粉も入れて煮込みました。ぜんざいは、別の鍋でお湯を沸かして、ゆで小豆・白玉を入れて作りました。また、別の鍋2つでお湯を沸かしてパックご飯を茹でました。そのころになると子供達もお腹が空いてきたようだったので、串にマシュマロを刺して焼き、ワッフルに挟めて食べてもらいました。熾火の上に網を乗せて、カレートッピング用のソーセージ・コーン・ナスを焼く間に子供達から先にカレーを食べて貰いました。最後は、各自コーヒーやササ茶を飲んで貰い、後片付け。残ったカレーとご飯パック、焼き野菜、ぜんざいはセンターにお渡ししました。

一方、炭焼き班は、オイル缶を埋める場所を決めるため、炊飯場の回りの何ヵ所かを掘ってみました。水道管があったり小石があって固かったりしてなかなか良い場所が見つかりませんでしたが、最終的に野外炊飯場の横の柔らかい土の部分を見つけ、オイル缶と煙突が

入るくらいの深さ40cm弱の穴を数人で二つ掘りました。一方、炭材は、以前の活動日に直径約3cmのクヌギとエゴノキを用意していました。オイル缶の底には、竹のすのこをしき、クヌギとエゴノキを縦に並べ上の蓋のところから約3cmぐらい下までにぎっしりと詰め込みました。また、花炭をつくるため、木の実や松ぼっくりなど入れた缶詰の缶を下にむけてオイル缶の中に入れました。その後、オイル缶を穴に埋め、トタンを丸めた煙突を取り付けました。オイル缶の周囲に新聞紙を蒔き、土を少しづつ入れて隙間をなくしました。薪の上に新聞紙と小枝をのせ、着火しました。オイル缶に蓋をしてうちわで扇ぐと煙突から白い煙が出ました。空気が回っていることが分かります。これはうまくいきそうと期待が膨らみました。その後追い焚きをし、徐々に蓋を倒し空気口を閉じていきました。当然、煙は少なくなってきました。煙が透明になったので、空気口を全開にして、5分ほど空気をいれて、炭のガス分を抜く操作をしました。最後に完全に空気口を閉じ、上から土をかぶせました。あとはほっとくだけ。ここで納会の焼き野菜と温かいカレーとぜんざいも食べながら炭が焼けるのを待ちました。しかし、2つのオイル缶の煙突から煙があまり出ません。少し不安になり、消えたのではと心配。ここで、煙突は抜くのを忘れていたのに気づき、あわてて、煙突はぬきました。しかし、どうもおかしい。煙突が熱くない。消えたのか？？食事が終わった後、オイル缶を掘り出し、中を見ました。結果は、上の方は焦げてやや炭化していますが、半分からは生木のまま！！花炭ができるはずだった缶詰の

缶からは入れたまんまのミカンがでてくるなどこれも失敗。燃焼が途中で止まったようです。炭焼きはやはりとても難しいということが実感できました。今回、2005年にセンター行事でやったときの体験者が森会に3人いることも判明し、当時も最初は失敗し3回目で成功ということも分かりました。失敗は成功のもと。課題を整理して再挑戦しましょう！！

【ふりかえりより】

- ・料理もおいしかったし炭焼きも初体験できてよかった。やっぱり森会は楽しい。(新地)
- ・焚火をする機会がなかなかないので久しぶりに火の粉の香りが懐かしく楽しかった(織田)

1月13日(日)

木工教室(雨天の為アカマツ林作業を変更)、アカマツ幼木調査
9:30~15:30



◆参加者: 鎌田、松雪家2名、平野家5名、林、吉田、山川中嶋、静間、奥畑 計14名

◆内容: 今日ではアカマツ林整備作業の予定でした。雨天用の計画書等は準備していたものの、てっきり曇空での作業だとたかをくくっていたから焦りました。慌てて道具や資料を準備して出発。行き掛けに虹も見えたので晴れるかなとも思いましたが、雨模様のため木工教室に変更しました。

①どんぐり工作

材料はクヌギのどんぐりで、仕上げる色の発色をよくするためにまずは白で下塗り、そしてドライヤーで乾かして体の色

や顔や手足を描きました。乾燥が待ちきれず手や指先に絵具がつく人が続出。絵具の無駄使いをしないように牛乳パックのパレットに出した絵具をみんなでシェアしました。声の掛け合いでうまくシェアできたと思います。作品は個性あふれるオモシロイどんぐりのだるまや猫ができました

②ウッドバーニング

デザインを考え、10cm×20cmの板に下書きの後、焼き入れ。なかなかみんな上手にできました

③削り馬体験

センターの削り馬とドロナイフを借りてホオノキを削りました。バターナイフやフォーク作りに挑戦。大きなドロナイフで削ることはコツをつかむまではなかなか難しいものです。

本日は、怪我もなく、たのしい作品が沢山生まれました

【ふりかえりより】

- ・ネコとダルマをかわいく作れた。(松雪さんの孫 美空)
- ・アカマツの芽を探すのがとても苦労した。しかし、楽しみながら幼木調査できたのが良かった。(体験: 奥畑)

1月20日(日)

第二回五カ年計画検討会
9:30~15:30



◆参加者: 鎌田、松雪、静間、川上、林、山川、榊、センター長、小川 計9名

◆内容:

次期五カ年計画(2019~2023)は昨年より現地確認も行い検討してきましたが、本日は各フィールドの具体的な整

備内容、年次工程等の話し合いを行いました。最終の計画は年度末うんえー会で提示して承認していただけるように準備を進めます。

【ふりかえりより】

・今日は少人数でしたが深い話が出来て良かった（川上）

2月10日（日）

森の保全作業体験とシイタケ菌駒打ち

9:15~16:00



◆参加者：静間、松雪、鎌田、林、白石、吉田、迫、砂田、平野家5名、杉尾家4名 計17名

◆内容：いつもよりちょっと早めの9時15分から事前打ち合わせをし、作業分担を決めて、道具の準備をしました。

10時から一般参加者への事前レクチャーで、森会の保全活動の紹介をしました。アイスブレイクで緊張がほぐれたところで、センター前に出て全員で準備運動。続いて一般参加者はシイタケ刈り体験を楽しみ、カブ森へ移動しました。採ったシイタケは昼食で食べます。駒打ち準備班は、道具や薪などを軽トラに積み込み、キャンプ場へ向かって火熾しの準備をしました。

作業体験班は、一般参加者がシイタケ刈りをしている間にカブ森C地区東屋に向かい、道具の準備、作業分担と作業内容の確認をしました。

一般参加者は予め4班に分けてあったので、2班ずつA地区とC地区に振り分けました。各地区とも、森会のメンバーがリーダーとなり、それぞれ草刈と

伐採を30分交代で体験して貰いました。

A地区での草刈りは観察小屋北側のササ、休憩小屋西側のササなど、伐採はB地区との境にあったアラカシとB地区東側遊歩道沿いのヤブツバキに挑戦しました。

C地区の草刈りは斜面の南半分、伐採は階段下付近のタブノキで作業をしました。

何れも12時20分には作業を終えて、キャンプ場へ。スタッフも道具確認をした後、キャンプ場へ向かいました。

12時半から火熾しをして昼食となり、皆さんいろいろ持ち寄ったものを焼いて楽しんでいました。

今日の目玉のシイタケ駒打ちは13時20分から。楢木が多いので後半は若干だれ気味でしたが、ケガもなく終わることが出来ました。

道具の手入れを終えて、振り返りまでほぼ予定通り終了できました。

【ふりかえりより】

・初めて参加しましたが、楽しかったです。お天気にも恵まれて良かったです。（体験：砂田）
・火おこしとあそぶところがたのしかった。（平野正悟）

2月24日（日）

カブトムシの森整備

9:30~15:30



◆参加者：静間、松雪、織田、山川、鎌田、平野家4名、体験：早川家4名 計13名

◆内容：春のような穏やかな日和の中、子供の参加も多かったため、作業前にカブトムシの森で自然観察をして、春の兆しを見つけて貰いました。子供たちはB地区親水区域での水生動物探しが楽しかったようです。伐倒作業は熟練会員により、午前中はA、B地区のクヌギの枯損木処理、午後はクヌギ、コナラなど、直径15~20cm前後の木を計5本間伐しました。C地区入口は従来の階段（15番ポスト）に加えて14番ポストからのルートの整備が進み、入口表示の看板もそちらに移してあります。そこで当日は子供たちの伐倒体験を兼ねて、橋を渡った辺りの整備をしました。ベテラン会員の指導のもと、5m程のヤブニッケイなどを伐りました。細かくしていく作業に子供たちが嬉々として取り組んでいたのが印象的でした。最終的にヤードに入れるため、新たに搬入路を作ると共に、ヤードの補強もしました。これによりスギ林の遊歩道から明るいC地区の視認が格段に向上しました。

【ふりかえりより】

・初めて参加しました。子供達もののびのび・・・作業したり遊んだり・・・。木が倒れる時の匂い、倒した後のポッカリあいた空がとても印象に残りました。生き物の観察、ナイフの使い方も感謝です。（体験：早川）
・A地区のクヌギ伐採が着実に進んでいます。一方で萌芽枝が伸びてきているので、しっかり保護育成しましょう。下層植生が今後どう推移するか興味津々です。C地区への新しい進入ルートの整備はまだ暫く取組みます。（静間）

アカマツ林成木調査報告

(アカマツ林調査世話役 中嶋)

アカマツ林では、アカマツの生育状況やマツ枯れ被害等を把握し、今後の整備計画や作業に役立てるため、毎年 A 地区から F 地区の全地区の成木（胸高直径 3 cm 以上）を対象に、各個体の胸高直径と樹勢の記録を行っています。

今年度も平成 30 年 12 月 8 日に、計 72 本の成木について調査を行いました。

調査結果からアカマツ林の状況などについて報告します。

1 各地区のアカマツ成木の構成について

下記の表 1 は、各地区の成木を胸高直径の大きさに分けて本数を示したものです。

これを見ると、B 地区・C 地区では、胸高直径が 30 cm 以上の大きなアカマツばかりで構成されており、それより小さな若い成木が育っていないことがわかります。

表 1 胸高直径(D)の区分別構成割合 (本)

地区	小径木		中径木		大径木		計
	D<10cm	10≤D<20cm	20≤D<30cm	30≤D<40cm	40≤D<50cm	50cm≤D	
A	-	3 (11%)	4 (15%)	2 (7%)	10 (37%)	8 (30%)	27
B	-	-	-	-	3 (43%)	4 (57%)	7
C	-	-	-	3 (38%)	5 (63%)	-	8
D	1 (17%)	-	2 (33%)	1 (17%)	2 (33%)	-	6
E	2 (25%)	2 (25%)	2 (25%)	1 (13%)	-	1 (13%)	8
F	5 (31%)	4 (25%)	2 (13%)	2 (13%)	2 (13%)	1 (6%)	16
合計	8 (11%)	9 (13%)	10 (14%)	9 (13%)	22 (31%)	14 (19%)	72

B 地区・C 地区とも、常緑樹の除伐などで現在では日当たりの改善が見られますが、それまでは幼木が育ちににくい環境であったことが要因だと考えられます。

また、アカマツの生育には適さない養分豊富な土の層（腐植層）がまだまだ厚く堆積していることから、今後は地かきや下草刈りを行い、アカマツ幼木を育成していくことが課題と言えます。

一方、E 地区・F 地区では、小さな若木から大きな高齢の木まで幅広い構成となっており、世代交代が順調に進んでいるのではないかと考えられます。

これらの地区は、尾根沿いで比較的腐植層が少ない場所が多く、日当たりもよかったことから、幼木が育ちやすかったのではないかと考えられます。



(輪尺による胸高直径の測定風景)

2 マツ枯れの状況について

下記の表 2 は、この調査を開始した平成 26 年度以降にマツ枯れで枯死した個体と、その個体の胸高直径の推移を示したものです。

平均して年間 1 本程度が枯死していることがわかります。今回の調査でも A 地区の A-5 の個体が枯死しているのを確認しました。

また、マツ枯れした個体は、中径木から大径木で主に胸高直径 40 cm 以上の立派な個体が多いことがわかります。

表 2 マツ枯れ個体と胸高直径の推移 (cm)

樹木 No	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
A-5	43.3	44.0	43.7	44.1	44.1 (枯死)
B-6	46.2	46.2	伐採 (枯死)		
C-8	49.4	50.3	49.6	伐採 (枯死)	
D-6	28.6	伐採 (枯死)			
F-16	21.6	21.8	伐採 (枯死)		

今後もマツ枯れ等により、現在ある大径木が徐々に消失していくことが予測されます。これらに替わる次世代の育成がやはり重要と言えます。



○その他気づいたことなど

【枯死の前兆？】

表2を見ると、枯死する前の数年間、胸高直径がほとんど伸びていないことがわかります。（前年より数値が小さくなっている箇所は、計測時の誤差によるものです。）

枯死していない他の個体の場合、1年間で平均して1cm前後の成長が見られることから、多少の誤差はありますが、枯死する前兆のようなものとして考えることができるかもしれません。

【ヒトクチタケの出現】

枯死したB-6の個体には、たくさんのキノコが生えてきていました。そのキノコは「ヒトクチタケ」と呼ばれるサルノコシカケ科のキノコで、枯れたマツの側面によく生えるキノコとのこと。

かさの直径は2～3cm。下側の膜に穴が開き、魚の干物のようにおいを出すのが特徴らしいです。これは、自分の胞子を運んでもらおうと虫たちを集めるためのもので、この穴には昆虫たちがよく集まっているそうです。



（B-6個体に出現したヒトクチタケ）



（ヒトクチタケの拡大）

【劣勢木ほどマツ枯れに強い？】

すでに記載したように枯死した個体の多くが中～大径木でした。E・F地区には、若木や劣勢木などの小径木が多くみられますが、こちらはマツ枯れによる被害はまだ見られていません。

原因はよくわかりませんが、樹齢10年頃までの幼木はマツ枯れしにくいとも言われており、このことが関係しているのかもしれませんが。



（F地区の劣勢木 撮影：H27.1 調査時）

3 おわりに

アカマツ林は常緑樹の除伐作業が進み、林冠が開け、全体が見通せるほど明るい林となりました。

来年度からは新たな5か年計画に基づいた整備作業も始まり、次のステージに入っていきます。

今後は、地かきや下草かりなどに力を入れて、アカマツが好む土壌づくりを行っていくことが重要だと思います。地味な作業かもしれませんが、次世代を担うアカマツを育てていくため、会員みんなで取り組んでいきましょう。



油山のお仕事日記

「ロゼット」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

今回の「ロゼット」とは、この写真のような植物の「状態」のことです。「ロゼット状」とも言ったりします。



これはオニタビラコのロゼットです。地面にぴったりと寄り添いながら、放射状に葉を広げています。なんとなく、とても美しい形だと感じます。これが、一見雑然とした草むらにボンと開いていると嬉しくなります。いつもそっけない妻がバレンタインデーにささやかな箱チョコをボンと投げてくれた時のような嬉しさ…じゃないか。ズレました。

このようなロゼット状態になる植物には2つのタイプがあります。ひとつはオオバコやタンポポのように、そもそもその形状で一生涯を過ごす植物です。踏みつけや草刈りが頻回に起こるような場所に適した植物といえます。もうひとつは、秋に芽生え冬に耐えるために、あえてこのような形態をとる植物です。つまり冬以外の季節では、によきによきと立ち上がった姿になります。ノアザミやチチコグサなどがそうです。

では、後者の「冬に耐える形態」について考えてみます。まずは放射状に開いた葉。これは、冬の弱い太陽光を効率よく集める形と言えます。葉と葉の重なりを無くし、全ての葉がめいっぱい光合成するためにはこんな形になるのでしょうね。次に地面にぴったり寄り添う形。これは寒さに耐える形態と言えます。太陽で温められたあったかい地面になるだけ近づこうとすると、ペタッと伏せた形が良さそうです。しかも、地面から吸い上げた水やら何やらを高いところまで持ち上げなくて済むので楽ちんです。

花や実にくらべると、地味さで圧勝するロゼットです。紙面でその魅力をアピールするより、心のはしっこで(好き)とつぶやくくらいがちょうど良い案件かもしれません。同様にバレンタインデーのくだりも、本来は心の中でつぶやくべき案件です。…またズレた。

リレーコラム

「自然に触れること」

杉尾 さあな

「子供たちの考える力を育てるためには…」インターネットの普及により、今までの常識が通用しない時代になったように感じます。お店を構えるのに土地がいらない、社員がいらない、スマホ一台あれば仕事ができ、20年前1分20円でPC遊びをしてい



た小学生時代には考えられない今があります。自分の子供が産まれ、子育ての事を考えた時、彼らの20年後を想像しました。果たしてなにが彼らに必要とされるのだろうか。

テレビからは連日AIが…AIに…という声をよく聞きます。文部科学省のHPにも、2030年には65%の子供たちが今存在しない職業に就くという予測まで載せられています。そんな情報を耳にしながら、これからを生きる子供たちには、新しいニーズに気づき「動く力」、ゼロからイチを「産み出す力」、どんな革命が起きても「生き抜く力」ではないかと考えました。その力をつけるために必要となるのが「考える力」なのかなと。それで最近、考える力を育むには何が必要かという好奇心で頭がいっぱいになっています。

その一つに欠かせないのが、「自然に触れる事」だということを森会の活動を通して気づかせてもらいました。自然が織りなす色や形、香りを五感で感じ、自然との付き合い方を学び、思いっきり冒険する、どれをとっても考える力を育むにはかせないものです。また「多世代」もこの会の素敵な環境だと思っています。＜愛・自然・アート・音楽・コミュニケーション・多世代・多文化…現時点で気づいた「考える力」に必要なもの。具体的に落とし込むのが今の課題。意見頂けると嬉しいです。＞

私は、子供2人(寧音4才、陽平2才)と母で参加させてもらっています。入会した時は陽平が3ヵ月。今もたくさん皆さんの手をかりながら活動を楽しませてもらっています。「私もそうやってしてもらったからいいのよ～」と声をかけてもらう事が多く、私もいつかそんな風に恩返ししていけたらいいなと思っています。また普段は春日市で国際交流と多言語活動(ヒッポファミリークラブ)の場所を母が作っており、そのお手伝いをしています。

うん・えー会報告

2018年12月8日(土) 9:30~12:00

出席者—林、鎌田、川上、中嶋、吉田、静間、堤、国広、山川、柴戸、富山一家2名、平野一家5名

合計17名

1 役割決定、資料確認

2 9~12月活動報告 詳細は、会報第128号参照

9/2(日) 油山自然観察

9/23(日) 安全講習会(鎌田)→基本の勉強なので次回開催の場合は多数の出席を望む。

10/7(日) アカマツ林作業(松雪)、植生調査(鎌田)

10/14(日) カブ森作業(静間)—台風被害処理等

11/3(土) カブ森作業(静間)—間伐→嬉しいことに3家族10名と家族連れが多かった。

11/11(日) アカマツ林作業(松雪)—除伐、粗朶刈り、スワッグ作り(柴戸)→スワッグ作りに初めて挑戦。森の素材を生かしての飾り作りで、難しかったが楽しかった。

3 9~12月特別活動報告

11/23(金) カブ森作業(松雪)—材処理、オイル缶炭焼き材準備→6人という少人数の参加にしては、達成感の大きかった日でした。

4 12月~3月活動予定(会報第128号8Pに記載)

5 12月~3月

対外支援活動予定→多人数が来られます。みんなで歓迎しましょう。

1/11(金) 柏陵高校環境科学コース・油山研修(参加40人)→カブ森 or アカマツ林 →学校側と打合せ

1/12(土) 三菱電機(冬季)活動(参加20人)→柏陵高校との打ち合わせ次第で、カブ森 or アカマツ林を決定。

6 その他

6-1 次回特別活動日程打ち合わせ

6-2 世話役活動の振り返り提出依頼(林)→世話役宛原稿をMLにて送信します。

6-3 ボランティア活動保険の見直しについて

保険料—天災A・・・500円、基本A・・・350円・
検討内容—従来、森会会員は、天災Aに加入していたが、基本Aで充分と考えられる。

① 2019年度から、基本Aにて加入する。②年会費は従来通り2,000円とする。家族加算は従来通りとする。③ 天災Aの加入を希望する会員は、+150円で2,150円とする。④ 他団体で加入している会員は、-350円で1,650円とする。

6-4 椎茸の棺木について(中嶋)→2019年度から、クヌギ以外の樹木でも試してみたい。

7 センター連絡事項(小川)

8 発送作業 会報第128号

活動予定(2019年3月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・えー会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間: 9:30 集合 ~ 15:30 解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)

でご参加ください。必要な持ち物は

いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ筆記

用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。



3月24日(日) アカマツ林作業

広葉樹の除間伐を行います。

会員登録更新手続きのご案内

更新手続きは、3/22締切りです。お忘れになりませんように!!



◆4月~6月の活動予定は今後、HP

(<http://www.morikai.org/>)でお知らせします。

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊発行

編集担当: 川上寛、国広信幸、鎌田隆、静間純、

松雪清人 印刷担当: 小川真樹
